

第5回

全国果樹技術・経営コンクール

受賞者の概要

主 催 全 国 農 業 協 同 組 合 中 央 会
全 国 農 業 協 同 組 合 連 合 会
日 本 園 芸 農 業 協 同 組 合 連 合 会
全 国 果 樹 研 究 連 合 会
財 団 法 人 中 央 果 実 生 産 出 荷 安 定 基 金 協 会

後 援 農 林 水 産 省
株 式 会 社 日 本 農 業 新 聞

協 賛 青 果 物 選 果 予 冷 施 設 協 議 会

第5回果樹技術・経営コンクール表彰者

農林水産大臣賞

山梨県 奴白 和夫
和歌山県 水浦 言仁
愛媛県 西山 吉治
熊本県 熊本市農業協同組合柑橘部会

農林水産省生産局長賞

青森県 田沢 俊明
山形県 天童市農業協同組合果樹部会りんご部
神奈川県 原田 保
山梨県 J Aフルーツ山梨塩山ブロック生産部ピオーネ部会
静岡県 鈴木 幸隆
愛知県 河合 浩樹

全国農業協同組合中央会会長賞

北海道 荻原 正雄
福岡県 福岡みやこ農業協同組合仲津果樹部会

全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

岩手県 平 裕一

日本園芸農業協同組合連合会会長賞

香川県 吉田 哲士
大分県 おおいた県南柑橘農業協同組合連合会かぼす部会

全国果樹研究連合会会長賞

鳥取県 治部 英美
佐賀県 中村 司

(財)中央果実生産出荷安定基金協会理事長賞

沖縄県 松田 嘉肇

全国果樹技術・経営コンクール実行委員会委員長特別賞

福島県 大竹 邦弘

推薦調書の概要

農林水産大臣賞

○山梨県 ^{ぬはく} 奴白 ^{かずお} 和夫

住所 山梨県東八代郡八代町南866-1

経営面積は1haのぶどう専業経営であり、高品質なロザリオビアンコを基幹としマニキュアフィンガー、巨峰を取り入れた高級ぶどう生産を行っている。

ロザリオビアンコ栽培については、台木の選抜、整枝剪定、新梢管理、果房管理、病虫害防除法等を地域に先駆け開発し、「八代式一文字整枝法」に代表される安定生産技術を確立した。並行して地域にも栽培を普及するとともに、販売のための共選体制を作った。現在、県下一厳しい共選検査体制を堅持しており、有利販売に大きく貢献している。

また、堆肥を中心に有機成分を主体とした施肥設計とし、病虫害防除については、化学農薬を減らした防除体系を取るなど環境に配慮した栽培を行っている。

更に、JA八代支所ぶどう部の班長を勤める等地域での栽培の指導等に努め、ロザリオビアンコ生産者が活動当初の18名から72名までに増加する等栽培は大きく拡大し、産地の振興に貢献している。

○和歌山県 ^{みづうら} 水浦 ^{ときみ} 言仁

住所 和歌山県伊都郡かつらぎ町御所108番地

経営面積は2.34ha、うちかき1.5ha、ハウスかき0.27ha、ぶどう0.5ha、みかん0.07haで、かきとぶどうの複合果樹経営である。

中山間急傾斜地にあって、柑橘から落葉果樹への転換に取り組み、先進地研修等による技術の習得に努め、ぶどうでは、ピオーネの雨よけ栽培、かきでは、刀根早生のハウス栽培を一部取り入れ、収益の拡大を実現している。

また、ぶどうのジベレリン処理による生産安定、雨よけ栽培による品質向上を図るとともに、かきの低樹高化と所有する機械での園内道等の整備、固形アルコール利用の樹上脱渋法による脱渋期間の短縮等により、労力分散を図り、効率的な生産を行っているほか、減農薬、減化学肥料栽培にも取り組んでいる。

更に、いち早くぶどうの観光農園を開設し、今日では地域全体の取り組みとして入園者が6000名を超える等地域の活性化に大きく貢献しているほか、かき施設部会副会長等各種幅広い役職を歴任し、地域活動にも積極的に参加している。

○愛媛県 ^{にしやま}西山 ^{きちじ}吉治

住所 愛媛県北宇和郡吉田町大字立間1-2071

経営面積は5.15ha、うち露地みかん3.6ha、ハウスみかん0.45ha、中晩柑0.8ha、キウイフルーツ0.3haのみかん中心の大規模果樹経営である。

就農当初から企業的経営を目指し、積極的な規模拡大と南柑20号等地域に合った優良系統品種への転換、作業効率向上のための園内道・作業道の整備、スプリンクラー設備の設置等に計画的に取り組んできている。また、ハウスみかん栽培にも取り組み、約半分を地域初の少加温ハウスみかんとし、労力、コストの節減を図るとともに、通常ハウスへの労働投入を可能とし、より高い品質確保のための集中管理を行っている。

更に、雇用労働の有効活用のため、摘果、剪定等にも工夫を加え、樹冠外周摘果等技術格差が少なく、隔年結果を起さない技術を取り入れている。こうした少加温ハウス栽培や摘果技術は地域に広がり普及しつつあるほか、積極的な経営が規模拡大を目指す農家の手本となっている。

○熊本県 熊本市農業協同組合柑橘部会

代表者 ^{たきぐち}瀧口 ^{おさむ}治

住所 熊本県熊本市河内町船津1131

現在の会員農家数は486戸、柑橘栽培面積は916ha、平成14年度の出荷額は47億5,412万円となっている。

歴史のある産地として知られ、平成8年に我が国最初の光センサー選果システムを導入し、ブランド名を「夢未来」として市全体の一元集荷販売体制を確立した。このシステム導入により、高品質果実生産による有利販売を実現したほか、園地間・地帯間の品質バラツキを少なくするため、選果データを生産管理及び経営改善に活用し、品質向上を図る指針として活用している。その結果、マルチ栽培の飛躍的な増加、「豊福早生」「肥のあけぼの」等の高品質品種の導入、園地改造等生産基盤整備や多目的スプリンクラーの整備、各種新技術の導入につながってきている。

また、販売面では消費地での交流会の開催等により、ファンづくりを進め、「夢未来」のブランド化が熊本市全体の農産物のイメージアップにつながったほか、共販生産者も毎年増加し、農協共販に対して産地の意識が高まってきている。

農林水産省生産局長賞

○青森県 たぎわ としあき
田沢 俊明

住所 青森県中津軽郡相馬村大字五所字里見67-1

経営面積は3.9haのりんご専業経営であり、就農時の3.1haから現在まで規模拡大するとともに、併せて品種更新にも取り組み、4カ所あるりんご園をそれぞれ一定の品種に統一し、作業効率の改善を図っている。

また、自園地大苗育苗と所有する機械によって改植を効率的に進め、欠木が無く樹列が揃った園地としており、幼木もある中で、高い単収を維持している。

更に、自らりんご剪定講師として活躍するとともに、低樹高で高品質果の期待できる整枝剪定法の実践を行っている。また、マメコバチ利用の受粉や交信攪乱剤を利用した病害虫防除を実施するとともに、有機質肥料を20数年間10a当たり4t投入し、土壌環境の改善に努める等環境に配慮した栽培法を取ってきている。

加えて、全園地の無袋栽培を行うとともに、着色系品種を積極的に導入し、市場価格の高い早期の有利販売にも役立てているほか、直売や加工にも取り組んでいる。

○山形県 天童市農業協同組合果樹部会りんご部

代表者 にいぜき まさと
新関 正人

住所 山形県天童市老野森2-1-1

参加農家戸数は713戸、対象となる果樹園面積は729ha、うちりんご面積285ha、りんごの平成14年度の出荷額は、5億6952万円となっている。

昭和41年に組織が発足し、共選体制を確立しながら産地の強化に取り組んできている。特に実証展示圃の設置、試験研究機関との連携等により、新品種「昂林」の栽培技術の確立を図り、基幹品種として栽培面積の拡大を実現したほか、薬剤による摘果、低樹高化等新しい技術普及にも努めており、また、薬剤調合組合による効果的な防除の実施や光センサー式選果機導入による市場評価の向上等多様な活動により大きな成果を上げている。

当地域では、りんごの他にも「西洋なしラ・フランス」、「さくらんぼ」等の生産が盛んで日本一のラ・フランスの産地である等複合果樹産地として発展してきており、こうした産地づくりにおいて、当りんご部会が核となって活動を展開し、他の部会を引っ張ってきている。

○山梨県 JAフルーツ山梨塩山ブロック生産部ピオーネ部会

代表者 町田 嗣夫

住所 山梨県塩山市下於曾941-1

参加農家戸数は474戸で、対象となる果樹園面積は51ha、平成14年度のおどうピオーネ出荷額は4億9623万円となっている。

昭和51年から大粒で高級品種であるピオーネへの取り組みがスタートし、試行錯誤を繰り返しながら、地域優良系苗木の選抜、供給やジベレリン処理による種無し化栽培技術の確立、有利販売に向けた出荷体制を整備し、県下最大の産地を築いて来ている。

活発な部会活動を展開し、堆肥投入による土づくりや一経営体当たり30～40aの適正規模の維持等栽培管理を徹底している。また、販売面でも5段階の厳しい検査を行うとともに、点数制による品質評価を収益に反映させる方法を取り、県下平均より単収も多く、平均単価も大きく上回る等ブランド産地としての高い評価を獲得している。こうした取り組みは他地域でも広く認識され、視察者が増え、技術も広がり県内産地の模範となっている。

○神奈川県 原田 保

住所 神奈川県横須賀市津久井5-21-5

果樹経営面積3.92ha、うち露地みかん3.27ha、ハウスみかん0.4haの柑橘専業経営であり、露地みかんについては全量観光もぎ取りと宅配で、ハウスみかんは市場出荷を主体にして販売され、家族労働を中心にパート雇用を活用して効率的な経営が行われている。

露地みかんでは、地域の生産者で組織する協議会で開花等栽培環境の調査を行い、生産技術の向上に活かしているほか、地区内での共同防除や改植のための共同育苗等により、経営の効率化に生かしている。

ハウスみかんでは、隔離ベッドや根域制限による高糖度化を図るほか、温度、水の管理に複合環境制御装置やハウスの状態把握のためのデータ通信技術を活用した省力化を図るとともに、有機物主体の施肥を行う等行き届いた管理を行っている。

地域活動では、みかん狩り組合やハウスみかん組合の長を勤める等産地の形成、発展にも積極的に取り組んでいる。

○静岡県 ^{すずき}鈴木 ^{ゆきたか}幸隆

住所 静岡県浜北市宮口3911

経営面積は4.74ha、うち露地みかん3.0ha、ハウスみかん0.4ha、ネーブル他0.27ha、露地梨0.9ha、ハウス梨0.17haの柑橘と梨の複合大規模果樹経営である。

施設（ハウス、貯蔵）を取り入れた柑橘と梨の多様な栽培体系により、収穫出荷期間の長期化と労働力配分の効率化を図るほか、園地の集約化、改植と基盤整備を積極的に行うとともに、平坦地でのSSの使用、傾斜地でのスプリンクラーの設置等省力化に努めている。

また、完熟堆肥等有機質主体の施肥体系や梨でのネット被覆、フェロモン剤使用による低農薬栽培等環境に配慮した栽培を行うほか、マルチ被覆や樹冠上部摘果等安定生産、品質向上にも努めている。

更に、家族経営協定により、役割分担の明確化やパソコンの活用によるホームページ、ネット販売等による効率的な経営を実現するとともに、研修生の受け入れ、障害者の雇用等社会的な貢献にも力を注いでいる。

○愛知県 ^{かわい}河合 ^{ひろき}浩樹

住所 愛知県豊橋市中原町字南37-1

果樹経営面積は1.74ha、うち露地みかん1.2ha、ハウスみかん0.45ha、ハウズレモン0.09haのみかん専業経営である。

ハウスみかんにおいては、市場動向に合わせた管理や作型を確立し、被覆フィルム of 長期展長によるコストの削減や、土づくり等による樹勢維持等様々な技術を活用して安定生産を実現している。露地みかんでは、自家製のぼかし肥料により無化学肥料栽培を行うとともに、天敵を活用した防除にも取り組み、環境に配慮した経営を行っているほか、園内道の整備や並木植え風に樹形を改造しSSの導入等による機械化を図っている。また、ハウスみかん、早生温州、青島温州、寿太郎温州、ハウズレモンを組み合わせ極端な労働ピークを作らず無駄なく雇用を活用できる栽培体系を取る等効率的な経営を行っている。

更に、市場出荷の他に直売も行うとともに、ホームページで会員を募り、情報提供、交流活動を行うほか、研究会等を通じて確立した技術の地域への普及にも努めている。

全国農業協同組合中央会会長賞

○北海道 ^{おぎはら} 荻原 ^{まさお} 正雄

住所 北海道深川市納内町字納内3207-12

果樹経営面積は9ha、うちりんご2.5ha、おうとう2.5ha、なし0.5ha、ぶどう0.4haの他プラム、くり、くるみ等を栽培する大規模観光果樹園経営である。

りんご価格暴落を契機に、観光園地の整備を計画的に進め、おうとう、プラム、ぶどうの導入により7月から10月末までの来園者のニーズに応えられる基盤を築いて来ている。また、来園者に対する受け入れ環境にも心掛け、展望施設、直売所等交流施設の整備の他、消費者との交流にも力を注いでいる。

また、多くの品種を栽培し、地域に合った品種の選抜を行っているほか、大苗移植による早期成園化等効率的な園地作りを行っている。

販売面では、生産物の80%を直売するとともに、品目、時期によっては、農協共販の活用や加工販売施設の活用による手作りジャム等の工夫を行っている。

また、研修生や農業体験希望者の受け入れにより、地域の定住者の増加に貢献する他、深川市果樹協会の会長として、地域活動も積極的に行っている。

○福岡県 福岡みやこ農業協同組合 仲津果樹部会

代表者 ^{おおみず} 大水 ^{もいち} 茂市

住所 福岡県行橋市道場寺1520-8

参加農家数は131戸、地区の果樹栽培面積は51ha、うちいちじくは25ha、地区の果樹出荷額は1億5,858万円、うちいちじくは9,895万円となっている。

昭和40年頃の部会発足当時、主力はぶどうでもも、なし、いちじくがあったが、予冷庫の導入や平棚栽培により、いちじく生産を拡大してきた。

特に、全国に先駆けて導入した平棚栽培により、収穫労働時間の削減、着色向上、傷果の防止等を図り、農家の規模拡大と産地の拡大を推進してきた。また、農家に保冷庫の設置を奨励し、収穫後直ちに温度を下げて出荷する鮮度保持体系の実践や株枯対策としての無病苗の育成、供給、堆肥等による徹底した土づくり、高品質な品種「蓬萊柿」の選抜、供給等産地一体となった取り組みを行っており、「博多蓬萊」ブランドを確立している。

こうした仲津果樹部会のいちじく栽培の成功は、隣接地に徐々に拡大し、全国第2位のいちじく産地が形成されている。

全国農業協同組合連合会経営管理委員会会長賞

○岩手県 ^{たいら}平 ^{ゆういち}裕一

住所 岩手県二戸市米沢字下村57

経営面積2.1ha、うちりんご2ha、ブルーベリー0.1haの果樹専門経営であり、普通樹をわい化樹へ改植し、圃場の整備を進め、コストの低減を意識した生産に努め、省力化技術と機械の導入により、家族経営でまかなえる経営を実践している。

栽培面では、結実確保対策として、ミツバチの導入と人工受粉機により全面積での品質の向上を図っているほか、先駆的な防霜ファンの導入による被害の軽減策や交信攪乱剤利用による省農薬防除と堆肥等有機資材活用による土づくりを行い、エコファーマーの認定を受けている。

販売は、JA出荷主体であるが、一部贈答用には蜜入りセンサーの導入により蜜入り保証ふじとして販売する等有利販売を行っている。

また、JAりんご研究会の副会長として活躍する等地域の技術向上にも積極的に貢献している。

日本園芸農業協同組合連合会会長賞

○香川県 ^{よしだ}吉田 ^{てっし}哲士

住所 香川県三豊郡仁尾町仁尾甲451

経営面積は3.5ha、うち温州みかんが2.7ha、びわが0.1ha、レモンが0.15ha、その他中晩柑が0.5haでみかん中心の経営である。

家族中心の労働力の効率化のため、品種構成を早生、中晩生、中晩柑で計画的に配分し、収穫ピークの平準化を図るとともに、園内道整備やクローラー型運搬車、フォークリフト等による収穫、貯蔵、出荷の機械化、効率化を図り、大面積の柑橘を効率的に栽培している。

また、経営状況の把握のため、パソコンによる簿記記帳、経営分析、気象データの解析、防除日程等幅広く活用している。更に、各々の園地に応じた施肥体系、栽培管理を実践するとともに、温州みかんの袋掛け完熟栽培、国産レモンの栽培体系の確立等高品質化、安定生産のためにも様々な工夫を行っている。

加えて、地域の栽培グループの組織化にも努め、JA観音寺支部果樹部会長等としても活躍している。

○大分県 おおいた県南柑橘農業協同組合連合会かぼす部会

代表者 ^{ふじわら}藤原 ^{まさはる}政治

住所 大分県津久見市大字上青江4956番地の5

参加農家数は328戸、かぼす栽培面積は80ha、平成14年度の出荷額は、2億443万円となっている。

平成11年に農協合併によって広域の部会として発足し、従来、業務用の高級品として販売されてはいたものの、出荷調整が行われず、出荷最盛期には、価格が大きく低下する状況であったが、一般消費者向けの取り組みを開始し、2～3個入りネット販売による新たな需要開発やハウス栽培による早期出荷と長期貯蔵体制の整備を組み合わせた周年出荷により、出荷の平準化と価格の安定を図ってきた。

また、活発に部会活動を展開し、技術研修等に努めるとともに、作業性と品質の向上を図るための並木植えや園内道の設置、環境に配慮した栽培方法の検討等多様な独自の技術改良を行っている。

更に、かぼすゼリー等の商品開発にも努め、かぼすの使い方やビタミン、クエン酸等の効能を情報として提供する等積極的なPR活動を展開しており、この結果、かぼすの知名度が高まり、日常的な果実として需要も拡大し、安定した作物として新たにかぼす栽培に取り組む農家が増える等生産も拡大してきている。

全国果樹研究連合会会長賞

○鳥取県 ^{じぶ}治部 ^{ひでみ}英美

住所 鳥取県岩美郡国府町高岡30番地

果樹経営面積は2.28ha、うちなし1.48ha、すもも0.4ha、ぎんなん0.2ha、りんご等0.2haのなし中心の果樹経営である。

大正初期から二十世紀なしの栽培に取り組み、大玉で進物中心のなし栽培、すももの棚栽培、西洋なし、キウイフルーツ、うめ、ぎんなん、りんご等家族経営で労力を有効に活用した経営を展開している。

なし園は祖父の代から数十年に渡り周辺の山草を10a当たり1.5t投入を続け、施肥量が50%削減されているほか、窒素投入が少ないため、防除も30%減農薬が図られ、安定多収が実現している。また、家族労力を有効に活用し、徹底した早期摘果等によるなしの大玉高品質生産を行っているほか、すももの棚栽培を独自に確立し、地元市場、直売所での有利販売を進める等高い技術による安定した経営を行っている。加えて、果樹研究同志会会長を歴任する等地域の果樹農業の活性化に大きく貢献している。

○佐賀県 ^{なかむら}中村 ^{つかさ}司

住所 佐賀県唐津市半田4843

経営面積は2.12ha、うちハウスデコポン1.02ha、ハウスみかん0.6ha、露地みかん0.5haのハウスデコポンを基幹とした柑橘専業経営である。

デコポンの施設栽培を地域で最も早く取り入れる等収益性の高い品種、栽培体系を積極的に取り入れ、技術の確立を図っている。特に、高接樹の苗木への更新、自動換気装置、カーテン自動開閉装置、頭上灌水施設等をいち早く取り入れ、果実の高品質化と省力化に努めるとともに、剪定枝の園地還元、ピートモス、堆肥等の積極的施用と客土による単収の向上も図っている。

また、作業管理日誌を克明に記帳し、管理の改善に活用しているほか、県単事業等を活用し、無理のない計画的な規模拡大を図り、安定した経営を実現している。

加えて、地域のデコポン部会長を勤め、自ら完成させた施設栽培技術を地域内に普及させ、ハウスデコポンの全国的にも知られた産地として発展してきた原動力となっている。

(財) 中央果実生産出荷安定基金協会理事長賞

○沖縄県 ^{まつだ}松田 ^{よしただ}嘉肇

住所 沖縄県国頭郡宜野座村字松田2824-14

果樹経営面積は3.47ha、うち露地パインアップルが2.31ha、施設パインアップルが1.16haのパインアップル経営である。

高品質で多収のパインアップル生産を各種品種の組合せとハウスの導入により周年出荷し、安定した経営を行っている。特に、従来4年2収等の栽培体系を大苗の植付け等により、3年2収の栽培体系で行い、圃場の回転を良くするとともに、深耕と排水対策、密植、液肥の葉面散布等により、高単収と大玉果収穫による高品質果実の生産を行っている。

また、鳥害や日焼け防止のため、袋掛けに替えてネット被覆による栽培やハウス栽培、生食用栽培も取り入れ、高い単価を得るとともに、労働力の分散を図っているほか、大型農業機械を自ら修理、整備しコスト削減にも役立っている。

加えて、地区のパインアップル生産部会長も勤める等、地域活動にも積極的に取り組んでいる。

全国果樹技術・経営コンクール実行委員会委員長特別賞

○福島県 ^{おおたけ}大竹 ^{くにひろ}邦弘

住所 福島県大沼郡会津高田町大字松岸字上ノ台892

果樹経営面積は2.2haで、うちりんご0.8ha、すもも0.85ha、もも0.4haの果樹主業経営である。

りんごでは、成木園の低樹高化へ樹形を作り変えるとともに、幼木園では省力化と良品多収のため更なる低樹高仕立てを図るほか、経営規模拡大のための新植(1.2ha)を計画している。また、すもものフェロモントラップの設置、りんご、ももでは複合性フェロモン剤の導入等減農薬栽培を行っている他、グロスガンによる有機質、ゼオライト等の投入や高所作業機による作業の省力化を図る等安定経営に取り組んでいる。

また、JA会津みどり専門部会部会長として安全安心な果物づくりに取り組み、積極的な部会活動を行っている。